

クリティカルケア領域の男性看護師の キャリアおよびキャリア志向に関する実態

第11回日本クリティカルケア看護学会学術集会発表

目的

男性看護師（2012年 6.2%）

近年、クリティカル領域はもとより様々な看護領域に進出し、その役割も期待されている

クリティカルケア領域では、多領域に比して男性看護師の割合が多い傾向にある。キャリアやキャリア志向に特徴はあるのか？

【目的】 クリティカルケア領域の男性看護師のキャリアおよびキャリア志向に関する実態を明らかにする。

【意義】 クリティカルケア領域の男性看護師のキャリア支援の基礎資料となる。

方法

対象

全国の150床以上の病院で、複数（2診療科以上）の診療科を有する1,150施設の内、本研究に協力の得られた544施設に勤務する男性看護師（准看護師を含む）8,539名

調査方法

平成24年12月～平成25年4月に無記名の選択式一部記述式の自記式質問紙調査を実施し回収は、回答者本人による郵送法とした。

分析方法

各項目（選択式回答）の無回答を除き、記述統計を行った。

倫理的配慮

研究代表者が所属する施設の倫理審査会の承認を得て実施した。

結果

回答者の背景

全回答者

3,713名 (回収率43.5%)

クリティカルケア領域の回答者

678名 (今回の分析対象)

回答者の年齢と経験年数

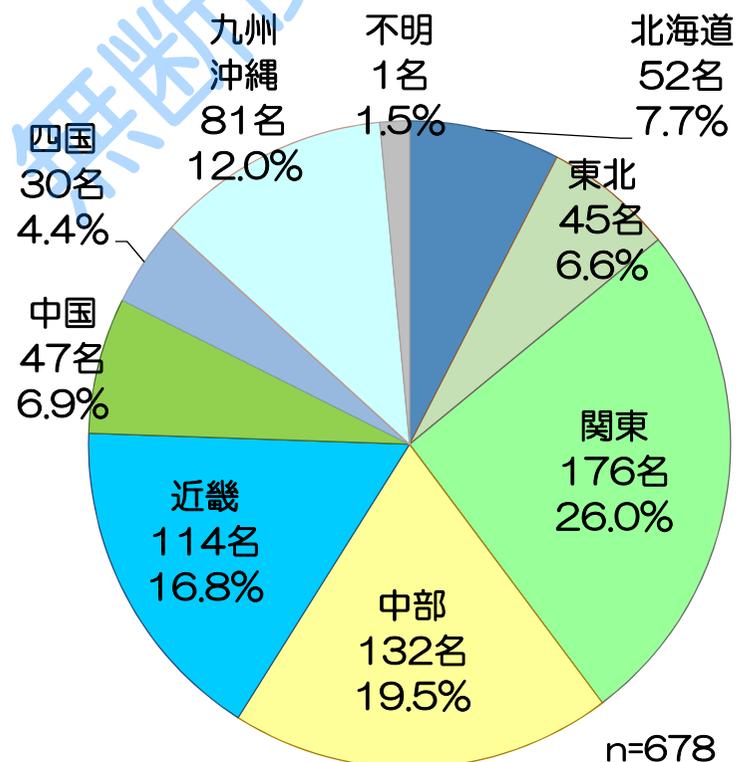
平均年齢 32.3±6.1歳

平均臨床看護経験年数 9.2±5.6年目

所属部署の平均男性看護師人数

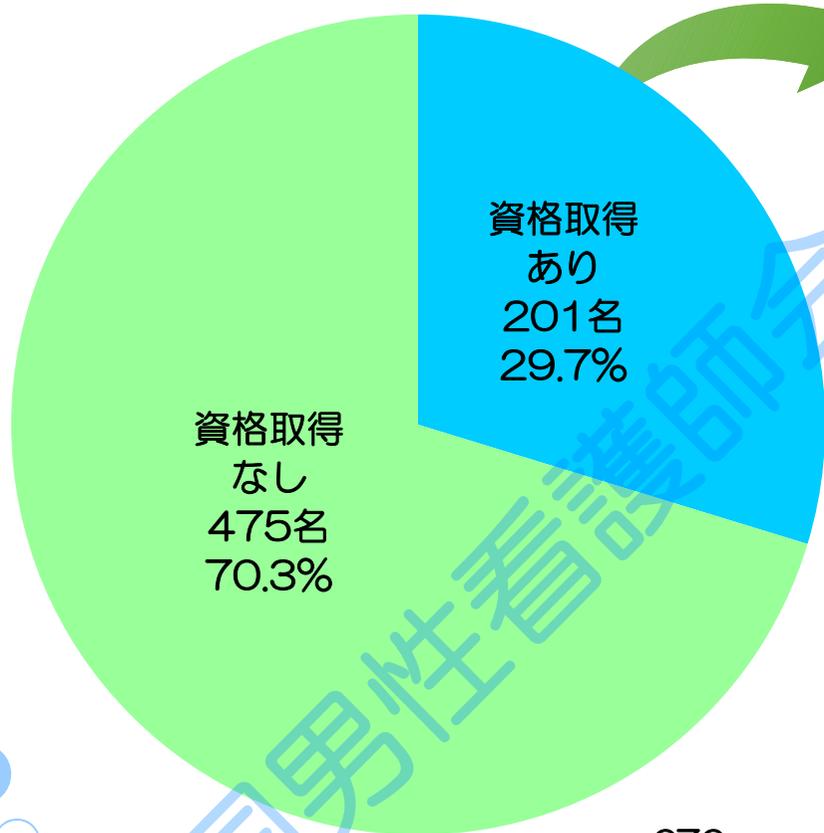
5.7名

回答者の勤務施設の所在地



結果

医療職関連の資格取得の有無とその内容

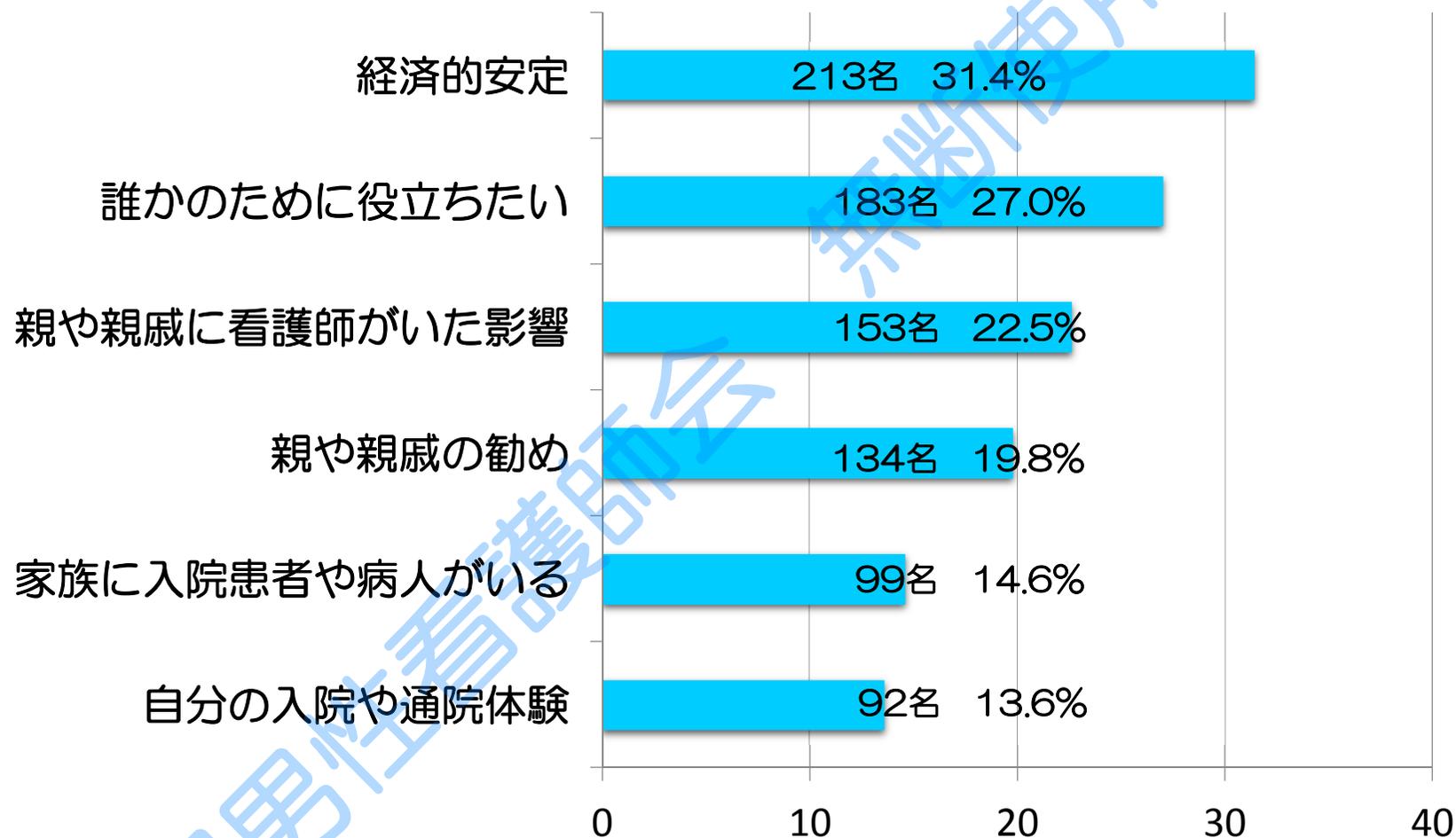


資格取得 一部抜粋

- 呼吸療法認定士や認定看護師が多い。
- 専門看護師や臨床工学技士の資格を有する者もいた。

結果

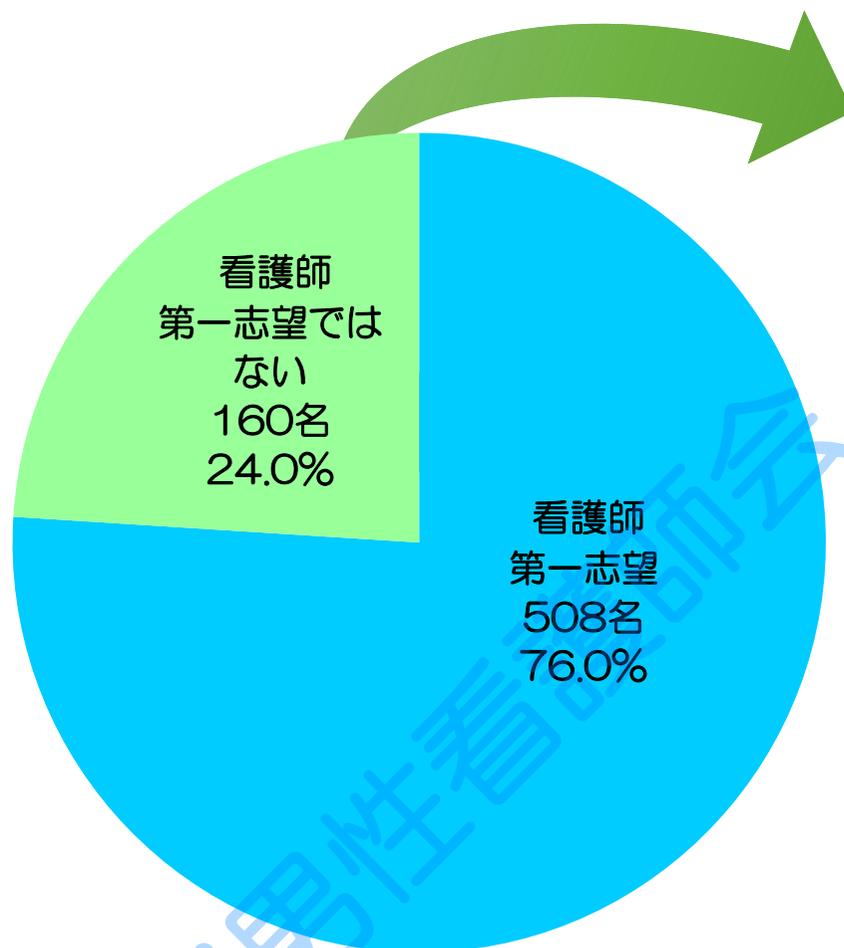
看護師への志望動機（複数回答）



n=678

結果

受験を検討する際の看護師以外の職業志望



n=668

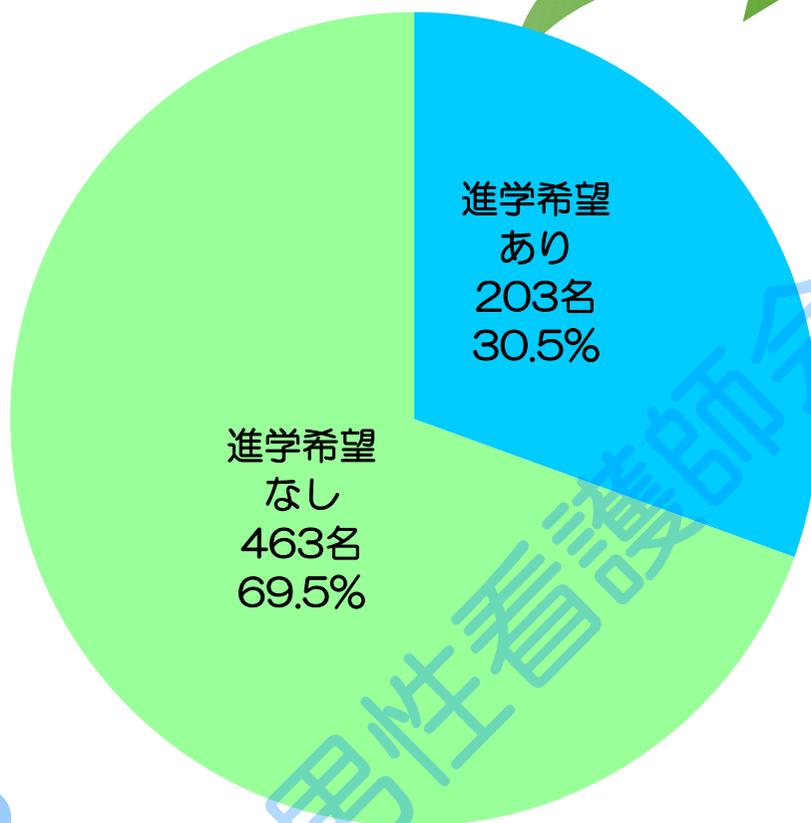
第一志望であった職種

- 医師
- 理学療法士
- 検査技師
- 臨床工学技士
- 救命救急士
- その他として医療職以外

など

結果

看護職関連を含む教育機関への進学希望



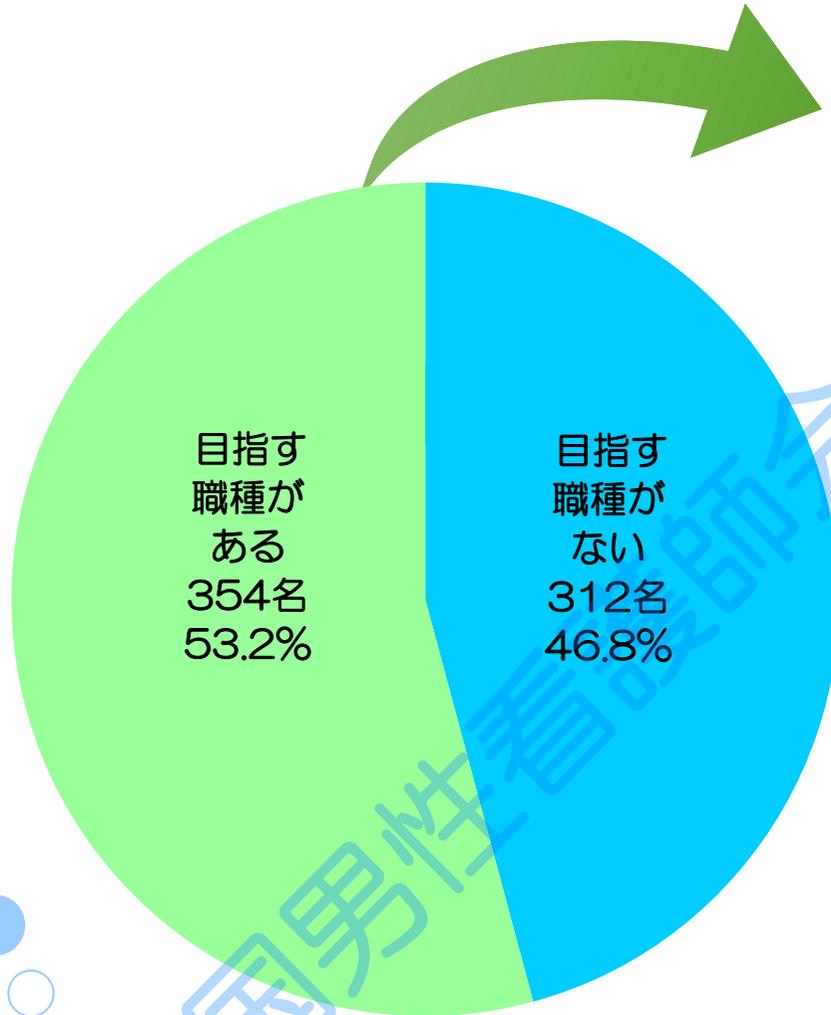
n=666

最終的な進学先

- 大学院修士（博士前期）課程
94名（46.3%）
- 4年生大学編入
56名（27.6%）
- 認定看護師養成課程
28名（13.8%）
- 大学院博士後期課程
17名（8.4%）
- その他、不明
8名（3.9%）

結果

将来的に目指そうと考えている看護関連職種の有無と内容



n=666

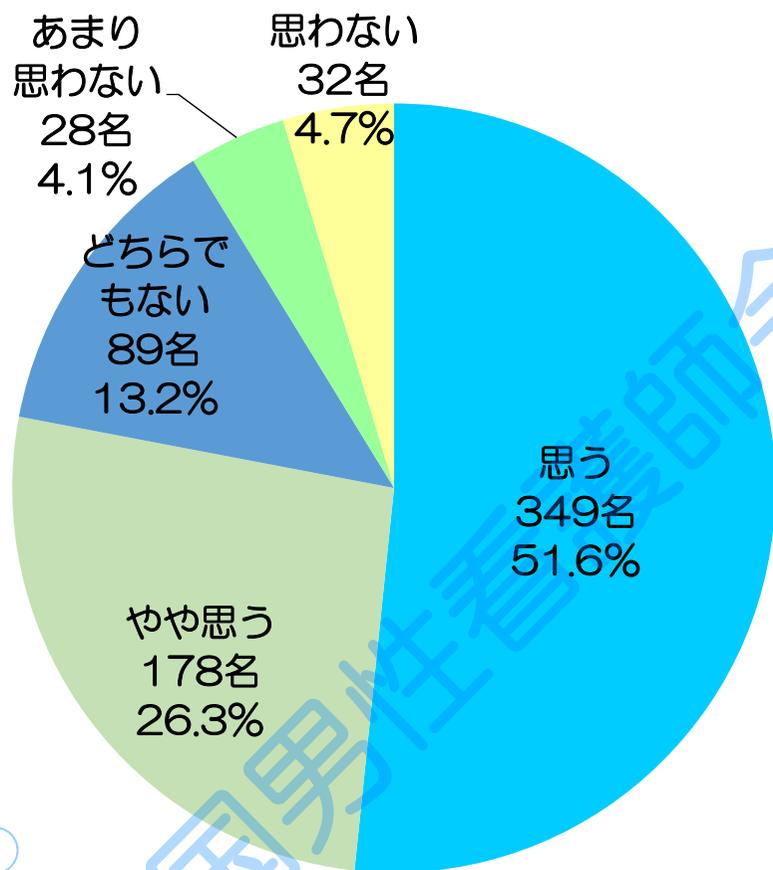
将来的に目指す職種

- 認定看護師 183名 (51.7%)
- 専門看護師 62名 (17.5%)
- 管理職 51名 (14.4%)
- 看護教員 22名 (6.2%)
- 保健師 6名 (1.7%)
- その他 (保健師、特定看護師など)、不明 30名 (8.5%)

結果

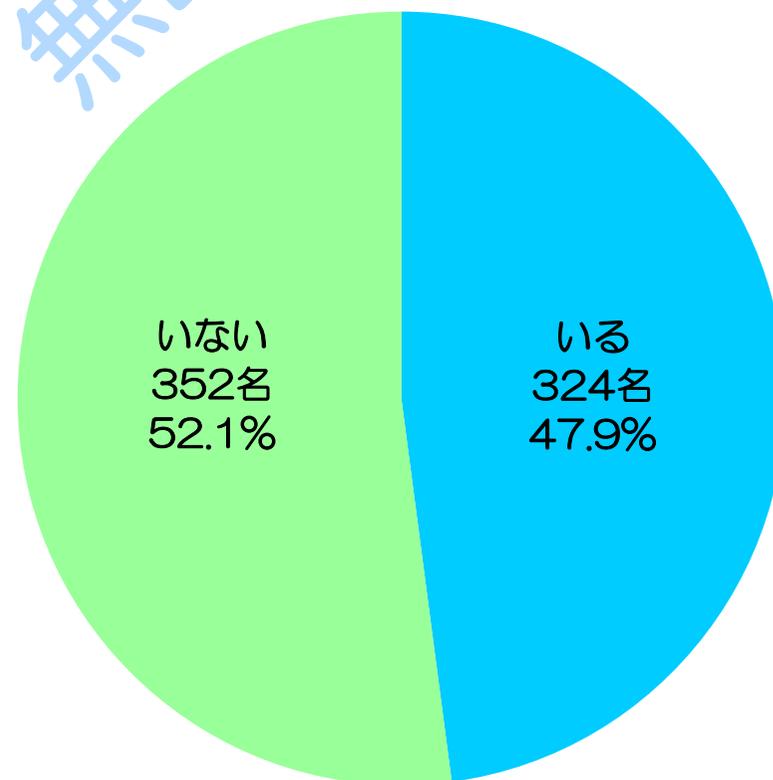
職務継続とモデル役割となる男性看護師の影響と実際

看護職を継続していく上でモデルや目標とする男性看護師の必要性



n=676

身近にモデルとなる男性看護師の存在



n=676

まとめ

- 多くの男性看護師は、看護師を第一志望としていた。
- 志望理由の上位が、「**経済的安定性**」であることから男性として家庭における「**生計者**」としての特徴が示された。
- キャリアに関して、進学希望を考えている者は**3割**程度である。また、約7割の者が何らかの資格を取得していたり、約半数が目指す職種があると考えていることから、キャリア志向が高いのではないかと考える。
- 職務継続においては、同性の役割モデルを必要と認識しているが、身近には少ない現状である。



クリティカルケア領域の男性看護師の支援

- **同性のモデルとなる男性看護師の人材育成**
- **希望するキャリアを支援する体制づくり**